

第6学年4組家庭科学習指導案

平成30年6月19日

展開場所：自教室

1 題材名 いためてつくろう 朝食のおかず

2 題材について

本題材は、新学習指導要領「B衣食住の生活」の(1)イ「楽しく食べるための食事の仕方の工夫」(2)ア(エ)「材料に適したゆで方、いため方」を受け設定している。また、「C消費生活・環境」の(1)ア(イ)「身近な物の選び方、買い方、情報の収集・整理」(2)イ「環境に配慮した物の使い方の工夫」の身近な消費生活と環境の領域にも関連させている。

児童はこれまでに第5学年「はじめてみようクッキング」や「食べて元気に」において、ゆでる調理や米飯及びみそ汁の調理の仕方、調理計画の工夫について学習をしている。また、「じょうずに使おうお金と物」では、ノートやハムの選び方をもとに、買い物の仕方について学習した。第5学年で身につけた「米飯とみそ汁」の調理に、この題材で学習する「いためる」調理を加えることで、朝食として1食分の調理ができることに気付かせ、家庭実践への意欲を高めていきたいと考える。この題材を通して材料に適したいため方といった調理の技能を高めるとともに、栄養のバランスを考えながら朝食を食べようとする意欲を育てたい。

本学級の児童は、家庭科に意欲的に取り組んでおり、家庭科の学習は、将来、家庭生活で役に立つと捉えている。いためる調理を家庭生活の中で経験した児童も多く、手伝いの中で野菜いためやスクランブルエッグを作っている。一方、食材を自分の目で確かめて買うということに関心をもっている児童はそれほど多くない。食材を選ぶ観点では、環境に目を向けている児童は少なかった。また、第5学年社会科で学習した地産地消の知識はあるものの、それが家庭科の食材選びとあまり結びついていないという実態もあった。新学習指導要領の総則の中には、「豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される児童」とある。近年求められている「持続可能な社会」を構築するためには自立した消費者を育成する必要がある。また、持続可能な社会の構築という観点から、主体的に食生活を営むには、身近なモノやコトを的確に選ぶ力の育成が求められる。選ぶ力は特別な題材をもって育成するのではなく、それぞれの題材の中で関連させて身につけさせることが望ましいと考える。おいしい野菜いためを自分で作るという児童の意欲や実践力を高めながら、環境保全に配慮した食材選びの視点も身につけることができるような授業を構成していきたい。

本時では、調理実習で野菜いためを作るために、食品の選び方を考えていく。そして、調理実習後には、学んだことを家庭でも実践する機会を設け、家庭生活をよりよくするために児童が主体的に実践しようとする態度を養っていきたい。

3 児童の実態（男子18名、女子15名 計33名）

<実態調査>

1 家庭科の学習は、今の家庭での生活で役に立っていると思いますか。

とても役に立っている	わりと役に立っている	あまり役に立っていない	全く役に立っていない
22	9	2	0

2 家庭科の学習は、将来（大人になったとき）家庭生活で役に立つと思いますか。

とても役に立つ	わりと役に立つ	あまり役に立たない	全く役に立たない
27	5	1	0

3 いためる調理をしたことがありますか。

1人でしたことがある	お家の人としたことがある	ない
12	15	6

4 毎日朝ごはんを食べていますか。

いつも食べる	だいたい食べる	あまり食べない	全く食べない
29	1	3	0

5 自分で食べるもの（外食のメニューやスーパーやコンビニの弁当、お惣菜など）を選ぶ機会ほどのくらいありますか。

毎日ある	週に4回以上ある	週に1～3回ある	ない
0	4	25	4

6 お家の人と一緒に、食材（野菜や肉、魚など）を買いにいったことがありますか。

よく行く	時々行く	ほとんど行かない	全く行かない
10	15	6	2

7 一人で食材を買いに行くことがありますか。

よく行く	時々行く	ほとんど行かない	全く行かない
6	10	11	6

8 自分のお金でものを買ったことがありますか。

はい	いいえ
33	0

9 店で食材を買うとき、実際に食材を自分で見て選びたいと思いますか。

思う	少し思う	あまり思わない	全く思わない
10	11	8	4

10 食材を選ぶとき、どのような視点で選びますか。

- ・見た目 …15名
- ・色 …7名
- ・おいしそう…5名
- ・好み …2名
- ・新鮮さ …11名
- ・値段 …6名
- ・大きさ …4名
- ・原材料…2名
- ・賞味期限…10名
- ・安さ …5名
- ・産地 …4名
- ・品質、旬、珍しさ、量、安全性、栄養、におい、体によさそう…各1名

【考察】

児童のほとんどが家庭科の学習は、将来、家庭生活で役に立つと考えており、9割以上の児童が家庭科の学習が今の家庭生活で役に立っていると捉えている。しかし、学習の際に「それを使って何ができるようになるか」ということは、認識していないようである。そこで、児童自身が自分の生活における学習の価値を認識していけるようにしていく。

また、自分で食べるものを選択する機会は、約9割の児童が週に1回以上あると答えており、比較的多いことが分かった。選択する機会のない児童は4名だった。実際に食べる物を選択している児童も多くいるため、一人一人が朝食のおかずづくりの実習を行うなど実践的な活動を多く取り入れ、日常生活にすぐに生かしていけるようにしたい。

本校の児童が住む地域の近隣には大型ショッピングセンターやスーパーマーケットなどがあり、児童は日頃から買い物の経験を積んでいる。家の人と一緒に食材を買いに行った経験を聞いたところ、一人で買いに行ったことのある児童は約半数、家の人と一緒に買い物に行ったことのある児童は7割以上であった。しかし、店で食材を買うとき、実際に食材を見て選びたいと思っている児童は6割で、残りの4割の児童はそういう思いをもっているわけではないことが分かった。今の児童にとって、一人で食品を購入する機会は少ないが、将来、豊かな食生活を送るために、その素地を養うことは重要である。そこで、児童が実感をもって学ぶことができるように、授業の中では購入する食材を選ぶ場面を設定し、家庭での実践では児童が自分で買うものを選ぶ機会を設けるようにしていきたい。

4 視点との関連

<視点2 確かな学力をはぐくむ学習の工夫>

児童の実態より、食材を自分の目で確かめて買うということに関心をもっている児童はそれほど多くないことが明らかになった。また、食材を選ぶ観点では、環境に目を向けている児童は少なかった。そして、既習である地産地消の知識が家庭科の食材選びとあまり結びついていないという課題もあった。そこで本題材では、学習で得られた知識や技能を活用できる力としていきたいと考えた。

学習で得られた知識や技能を活用できる力とするために、そう考える根拠が大切になる。その「根拠」となるのが、モノやコトの価値であり、その価値を根拠にして自分が決めたとする意思決定が生まれる。ただ単に「千葉県産だからいい」「無農薬だからいい」ではなく、なぜいいのか、なぜそれを選ぶのか自分の言葉で説明する場面を設定する。自分の意思で決めたことには責任が生じる。それを理解し、よりよい生活を創り出していくことにつなげていけるようにしたい。

食品の選び方や調理計画を考える場面では、学び合いや共有も大切にする。交流する中で新たな視点を得たり発見したり、学びが広がったりするようにしたい。また、家庭実践発表の場面も取り入れ、自分が取り組まなかった課題についても理解したり、課題を共有したりできるような構成にしていきたい。

<視点4 家庭・地域との連携の工夫>

本題材では、学校で学んだ知識や技能を自分の生活で実践していく、「生活をよりよくしようとする実践的な態度」を身につけさせるようにしたい。買い物の模擬体験をすることで、自分が買い物に行った際に、学習したことを生かすことができるようにしていく。また、長期休業を利用して家庭朝食づくりを行い、その実践発表会を行い、内容を共有できるようにする。題材の中で家庭や地

域での実践場面を意図的に設定することで、学んだことを実践に生かせるようにしていく。

5 題材の目標

- 朝食をとることの大切さに気付き、朝食に合う簡単なおかずを考え、計画を立てることができる。
- 環境に配慮した生活について課題を見つけ、その解決を目指して考えたり、自分なりに工夫したりする。
- いためる調理が分かり、簡単なおかずをつくることができる。

6 題材の評価規準

家庭生活への 関心・意欲・態度	○日常の食事に関心をもち、栄養を考えた食事のとり方をしようとしている。 ○調理に関心をもち、日常よく使用される食品を用いた調理をしようとしている。
生活を創意 工夫する能力	○朝食に合う簡単なおかずや調理計画、材料や目的に応じたいため方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。 ○栄養を考えた食事や環境に配慮した生活について課題を見つけ、その解決を目指して考えたり、自分なりに工夫したりしている。
生活の技能	○日常よく使用される食品を用いた調理に関する基礎的・基本的技能を身に付けている。
家庭生活についての 知識・理解	○栄養を考えた食事のとり方について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。 ○日常よく使用される食品を用いた調理に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

7 指導計画（9時間扱い）

小題材	時数	ねらい	主な学習内容と評価（○学習内容◆評価）
朝食を考えよう	1	○朝食をとることの大切さを理解することができる。	○朝食を食べたときと食べなかったときの違いについて話し合う。 ○朝食をとることのよさについて考える。 ◆朝食の大切さを理解することができる。(知・理)
	2 (本時)	○食品の選び方に関心をもち、調理で使う食品を選ぼうとする。 ○食品を選ぶときの観点や、環境に配慮した食品の選び方について理解することができる。	○食品を選ぶ模擬体験を行い、自分の選んだ食品とその理由を記述する。 ○グループで話し合い、今後自分が実践できることを考える。 ◆食品の選び方に関心をもち、調理で使う食品を選ぼうとしている。(関・意・態) ◆食品を選ぶときの観点や環境に配慮した食品の選び方について理解している。(知・理)
	3	○朝食に合うおかずをつくらうとする。	○朝食のおかずづくりで大切なことについて考え、朝食づくりで大切なことをまとめる。

			◆朝食に合うおかずをつくらうとしている。(関・意・態)
いためてみよう	4	○いためて加熱する調理の仕方や良さを理解する。	○いためたときの食材の様子を比較したり、フライパンの使い方を調べたりする。 ◆食品のいため方、いためる調理の良さが分かる。(知・理)
	5	○いためる調理法で、朝食に合うおかずの実習計画を立てる。	○いためてつくる朝食のおかずについて考える。 ○つくり方を調べ、実習計画を立てる。 ◆必要な材料や手順、環境に配慮した工夫を考え、朝食のおかずをつくる計画を立てている。(創・工) ◆調理に必要な材料の分量や手順、調理計画の立て方について理解している。(知・理)
	6、7	○実習計画にそって工夫して調理し、実践することができる。	○実習計画にそって、調理実習をする。 ○実習を振り返り、感想を話し合う。 ◆調理計画にそって調理している。(技) ◆環境に配慮しながら、工夫して調理をしている。(創・工)
	8	○家庭で野菜いためをつくるときの計画を立てる。	○今までの学習を生かして、家庭で野菜いためをつくる計画を立てる。 ◆家庭でも朝食のおかずをつくってみようとする意欲をもつ。(関・意・態)
	課外	○自分の考えた野菜いための計画を家庭で実践する。	○自分の考えた食事の計画を実践する。 ◆家族と楽しく食事ができるように計画を実践し、食事を大切にしようとしている。(関・意・態)
	9	○朝食の役割を考え、食事を大切にしようとする。	○家庭での実践を報告し合う。 ○自分の家庭でも生かせることを考えたり、環境に配慮した生活について話し合ったりする。 ◆栄養を考えた食事や環境に配慮した食生活について課題を見つけ、その解決を目指して考えたり、工夫したりしている(創・工)

8 本時の指導

(1) 本時の目標

- 食品の選び方に関心をもち、調理で使う食品を選ぼうとする。(家庭生活への関心・意欲・態度)
- 食品を選ぶときの観点や、環境に配慮した食品の選び方について理解することができる。
(家庭生活についての知識・理解)

(2) 本時の展開 (2/9)

時配	学習活動と内容	教師の指導と支援 (○指導・留意点 ◆評価)	資料等																								
2	1 本時のめあてを確認する。	○今回は野菜のための食材を選ぶことを伝える。																									
野菜のためを作るとき、どんなことを考えて材料を選べばよいだろうか。																											
3	2 今までの食品の選び方を振り返る。 ・安い物を買います。 ・消費期限を見て買います。 ・食べきれ的分だけ買うようにしています。 ・新鮮なものをよく見て買っています。	○5年生で学習した買い物の仕方について振り返る。 ○コンビニエンスやスーパーマーケットで食品を買ったときのことを想起させる。 ○なぜ、食材選びをするのか、今後どのように生かせるのかを問い、今後の姿を想像できるようにする。																									
1 5	3 キャベツを選ぶ模擬体験を行い、自分の選んだものとその理由をワークシートに記述する。 ・㊦は近くで採れていて新鮮でおいしそうだと思います。遠くから運んでくると新鮮ではなくなります。 ・㊧は無農薬だから安心して買えます。生産者の顔が見えるから安心です。 ・㊨は、見切り品なので、安く買えます。 ・㊩は千葉県産だし、㊦と比べると高いけれど、量を使い切らないと無駄になってしまうので、ちょうどいいからです。 ・㊪はぴったりの量だし、洗わなくてよいのでエコになると思います。	○5種類のキャベツの写真を提示し、この中から1つ選択することを伝える。 ○模擬の食品売り場を設置し、そこで食品を選べるようにする。 ○食品それぞれの相違点や特徴に気付けるよう、展示の仕方を工夫する。 <キャベツ> <table border="1" data-bbox="858 1373 1329 1892"> <thead> <tr> <th></th> <th>産地</th> <th>内容量</th> <th>値段</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>あ</td> <td>千葉県</td> <td>1玉 (1000g)</td> <td>150円</td> </tr> <tr> <td>い</td> <td>群馬県</td> <td>1玉 (1200g)</td> <td>250円</td> </tr> <tr> <td>う</td> <td>群馬県 見切り品</td> <td>1玉 (1100g)</td> <td>150円</td> </tr> <tr> <td>え</td> <td>千葉県</td> <td>半玉 (500g)</td> <td>100円</td> </tr> <tr> <td>お</td> <td>国産 カット野菜</td> <td>1袋 (220g)</td> <td>100円</td> </tr> </tbody> </table> ◆食品の選び方に関心をもち、調理で使う食品を選ぼうとしている。 (家庭生活へ関心・意欲・態度) ○グループで話し合ったことをホワイ		産地	内容量	値段	あ	千葉県	1玉 (1000g)	150円	い	群馬県	1玉 (1200g)	250円	う	群馬県 見切り品	1玉 (1100g)	150円	え	千葉県	半玉 (500g)	100円	お	国産 カット野菜	1袋 (220g)	100円	・食品の写真 ・食品のカード
	産地	内容量	値段																								
あ	千葉県	1玉 (1000g)	150円																								
い	群馬県	1玉 (1200g)	250円																								
う	群馬県 見切り品	1玉 (1100g)	150円																								
え	千葉県	半玉 (500g)	100円																								
お	国産 カット野菜	1袋 (220g)	100円																								
1 5	4 選んだ食品についてグループで話し	○グループで話し合ったことをホワイ	・ホワイ																								

5	<p>合い、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠くの産地のものは、運んでくるときに多くのエネルギーを使うね。千葉県産のキャベツを買うと環境のためにもよいことが分かったよ。 ・カット野菜は便利だね。お母さんが忙しいときに、使っているよ。 ・安く買えるのでお買い得品を選んだけど、このまま誰も買わなかったらどうなるのだろう。 <p>5 最終決定をし、自分の選んだ食材とその理由をワークシートに記述する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・㊦を買います。友達の意見を聞いて、お買い得品は安く買うこともできし捨てられてしまう食品を買うことで、「食品ロス」も減らせると思いました。 ・㊧にします。地産地消をすると環境にもよいことが分かったからです。 	<p>トボードに書きながら、整理しているようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○グループで出た「選ぶときに重視する観点」は、後ほど全体で確認することを伝える。 ○家庭によって選ぶ食品は異なるため、一つの価値観に絞らず、多様な考えを認める。 <p>○地産地消やフードマイレージ、ごみ問題などの観点に触れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○買い物でも環境を守っていくことができるという視点にも気付けるようにする。 ○食品ロスについて全体で確認する。 	トボード
<p>食品を選ぶときには、値段、分量、品質や環境などさまざまな観点から考えて選ぶとよい。</p>			
5	<p>6 学習を振り返り、今後実践できることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産地や品質など色々なことに気を付けながら食品を選んでいきたい。 ・環境のことを考えて食品を選ぶことも大切だとわかった。これからは、買い物でも環境を守っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆食品を選ぶときの観点や環境に配慮した食品の選び方について理解している。(家庭生活についての知識・理解) ○今日考えた食品の選び方をもとに、野菜のための調理実習をすることを伝える。 	